

# 霊水と共に

発行 法華寺  
NO.1  
河南町加納 247  
☎0721933023  
編集責任者  
副住職

## 春のお彼岸です



この度の、寺報発行にあたり、あれこれその名前を考えておりました。この法華寺の歴史、特色を思えば、やはり「霊水」しか浮かびませんでした。

室町時代(約五八〇年前)に、この地を訪れた日隆上人は、日照りの村を救うため霊験をあらわされました。山中から水を湧きおこされたのです。そして、現在に至るまで霊水は流れ続けています。

「水」は雨水、地下水、川となり、大海に集まります。「徳海の一滴」という言葉がありますが、我々寺族一人一人、法華寺檀信徒、お一人お一人様の「善行・善意」「世の中への貢献」、それらの一滴一滴が集まり、「世の中の助け合いの海」となるように願いを込めて、寺報の名前を付けました。今後、年四回、発行してまいります。何卒、よろしくお願いいたします。

「お彼岸」の中日(今年は三月二十日)は、真西に太陽が沈みます。沈みゆく夕陽を眺めながら、あの世を感じ、亡き人を偲ぶ人もおられるでしょう。

「彼岸」とはインドの言葉では「パーラミータ」と言い「煩惱を離れた悟り」のことで、仏の知恵、悟りの世界に近づけるように、この彼岸の時期には、より一層、善い行いをすべきであると日蓮聖人もおっしゃっています。

中日は皆さん彼岸の入りから彼岸の明けまでの一週間、お墓参りやお寺参りをされる方も多いです。

ご先祖様なくして、「今現在、生きている私や私の子供・孫」は存在しません。お彼岸は何千何万の見知らぬご先祖様の存在に感謝する機会と考えられます。

## お寺の情報を発信しています

昨年、檀信徒様に向けてホームページを開設いたしました。多くの方、若い世代の方にもお寺のこと、仏教のことを知っていただく、きっかけとなればとの思いでした。

また、社会に対して「まいてら」というお寺検索サイトにも登録しました。「まいてら」の主旨は、「仏教の良さ、日本のお寺の良さを伝え広め、それが、人々の生き方の助けとなること」を願ったものです。

お寺の役割は「代々にわたり、檀信徒の皆様の安心に役立つこと」「真摯な気持ちで仏事を行い、責任をもって御霊をお預かりすること」です。直接のお電話、ホームページ、メール、まいてらサイトの問い合わせフォームから、どんなことでもお気軽にお問い合わせください。



ホームページのブログ(二〇一六年五月二十六日)より

生きている我々にとって「健康」「学歴」「お金」などが、

一般に価値があると考えられています。これは「この世」

の理屈です。しかし、人が「あの世」に行ったとき、その

理屈は通るのでしょうか。「あの世」では、生前に「人に優

しくしたこと」「持っている財産で施しをしたこと」「世の

中に貢献したこと」などが、大切な価値とされると私は思

っています。

健康や財産に恵まれていても社会貢献しない人もいます。

また、病気や障害のある生活を「修行」のようにしっかりと

生き抜く人もいます。しっかりと社会貢献した人や、辛い闘

病生活に苦しんだ人には、仏さまから「本当によく頑張り

ましたね」とねぎらいの言葉がかけられ、その生き様が、

冥福(冥途の幸福)につながっていくのでしょうか。

## 今後の行事予定です

◎三月二十日(祝) 午後七時三〇分

彼岸会法要

◎四月二十二日(土) 午後七時三〇分

開山忌逮夜法要

◎四月二十三日(日) 午前十一時

開山忌祥當法要

※開山忌は、法華寺開山、法華宗門祖  
である日隆上人の遠忌法要です。

法要前後に、ご霊水の湧出口をお祀  
りしている水原堂(みずもとどう)へ  
のご参拝もおすすめます。

## あとがき

・住職(日驗)

今年で八十五歳になります。  
すが、ありがたいことに健  
康に恵まれ、読経もまだ  
まだ現役です。

・副住職(真人)

毎朝のウォーキングで、  
健康維持。始めてから四  
年になります。

・寺庭婦人(メイ)

「なにわの伝統野菜」を  
楽しんでます。今年も切  
り干し大根をたくさん作  
りました。

・寺庭婦人(早智子)

結婚して三十年。ガマン  
(修行?)の毎日です。で  
も、孫娘の成長に目を細  
める毎日でもあります。

・徒弟(大志)

毎週、テニススクールで  
汗を流していますが、  
なかなか上達しません。

